



ミサゴ (*Pandion haliaetus*) ミサゴ科

翼を広げた長さは180cmもある大きいタカの仲間です。海岸に住み、主に魚を獲物としています。

香寺町のため池にも飛来して、魚を狙っています。筆者は、土師の奥池と中の池で一度ずつ、大きな音を立てて水中に突入したミサゴが、フナを鷲づかみにして飛び上がる姿を目撃しました。

世界に広く分布する鳥です。日本でも留鳥として全国にいますが、減少しており、準絶滅危惧種です。

写真は、土師地区の中の池で冬に撮影しました。



マガモ、オス

カルガモ

マガモ (<i>Anas platyrhynchos</i>)	カモ科
カルガモ (<i>Anas zonorhyncha</i>)	カモ科

マガモはアヒルの先祖に当たる鳥で、人になつきやすい性質です。ユーラシア大陸北部や北アメリカ大陸北部で繁殖し、冬になると日本に来ます。

カルガモは日本で繁殖する留鳥です。カルガモは、マガモのメスに似ていますが、くちばしの先が黄色いことが特徴です。

どちらも主に植物の葉や種を食べます。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



オオクチバス (*Micropterus salmoides*) サンフィッシュ科

北アメリカの魚で、1925年に初めて日本で放流されました。兵庫県には1936年に放流された記録があります。今では、ほぼ全国の流れのゆるい川や、ため池などに住んでいます。体長70cm以上に成長し、体の半分くらいの生き物も捕食します。

ため池では、オオクチバスが増えると同時に、昔からいたフナやスジエビなどが姿を消していきました。

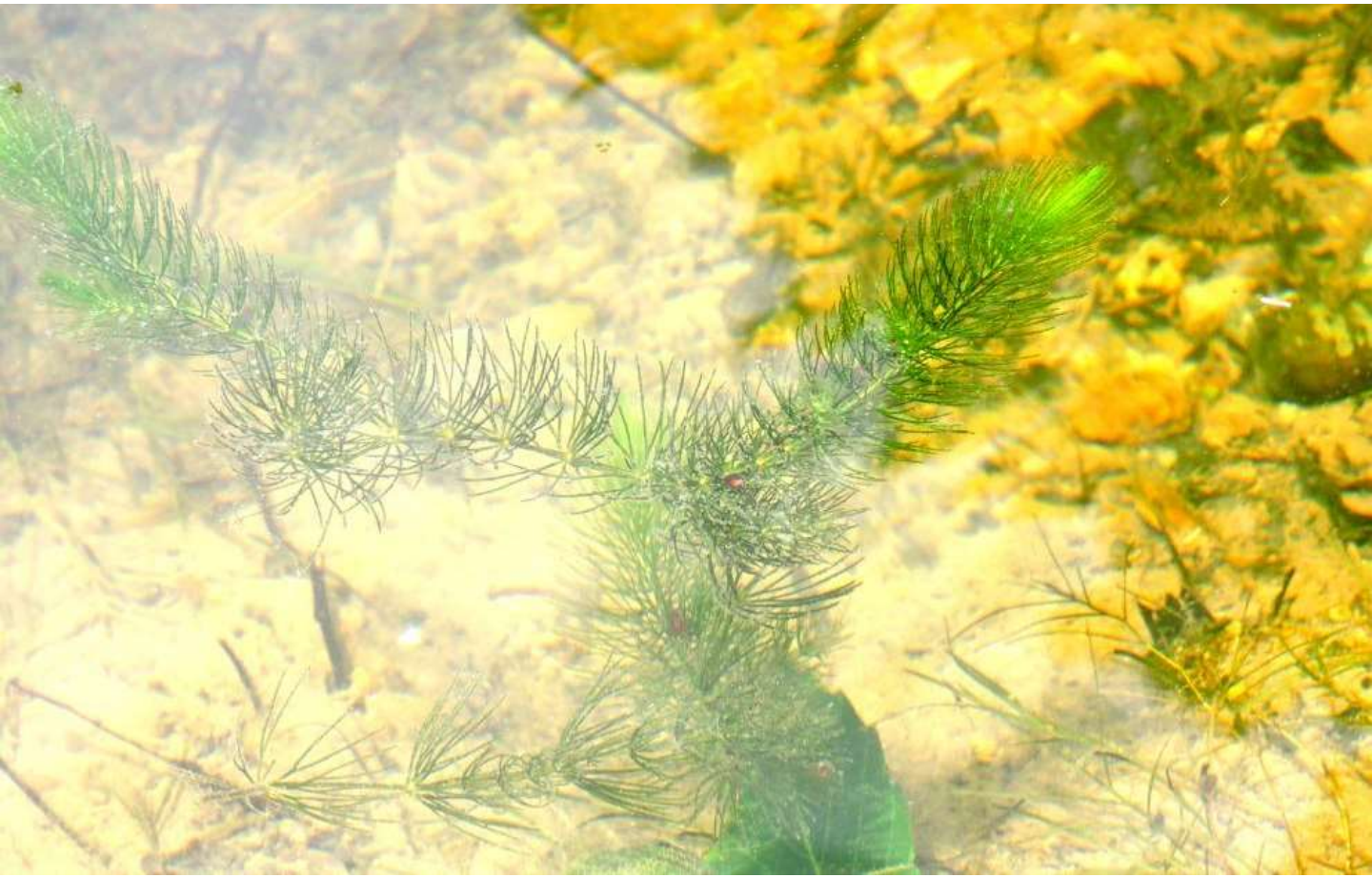
写真は、土師地区の別所池で撮影しました。



ドブガイ(*Sinanodonta spp.*) イシガイ科

ヌマガイ(*S. lauta*)とタガイ(*S. japonica*)の2種に分けられていますが、区別することが難しく、二つ合わせてドブガイと呼ばれます。池の底に体を埋めて住み、水中の栄養分を吸収します。10cmほどに成長する大きい貝です。味は泥臭く、まずいそうで一般的には食用にされませんが、昔は兵庫県でも食べられていたようです。茹でた身を干して、その後で佃煮などにして食べました。

写真は、溝口地区の柝羽奥池で撮影しました。



マツモ (*Ceratophyllum demersum*)

マツモ科

世界中の湖や川に生育する種子植物で、5月から8月にかけて白い花をつけます。根を持たず水中に浮かんで、ヒシなどの根に絡まっていることもあります。

良く成長し、茎の切れ端からも枝を出して大きくなります。水槽に入れて利用されることも多く、金魚藻と呼ばれることもあります。

写真は、相坂地区の奥三谷奥池で撮影しました。